

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2021.9



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



ホー・ツーニエン 百鬼夜行(ひゃっきやこう)

Ho Tzu Nyen Night March of Hundred Monsters

2021.10.23 | 土 | —2022.1.23 | 日 |

休館日： 月曜日（2022年1月10日は開館）、年末年始（2021年12月27日 - 2022年1月4日）

開館時間： 10:00-17:30（入場は17:00まで）

主催： 豊田市美術館

共催： 中日新聞社

助成： 芸術文化振興基金

観覧料： 一般1,000円[800円]、高校・大学生800円[600円]、中学生以下無料

[]内は前売券及び20名以上の団体料金。

障がい者手帳をお持ちの方（介添者1名）、豊田市内在住又は在学の高校生及び豊田市内在住の75歳以上は無料（要証明）。

前売券：豊田市美術館（9月20日（月）まで）、T-FACE B館2階インフォメーションカウンター（10月22日（金）まで）

*その他、観覧料の減免対象者及び割引等についてはウェブサイトをご確認いただくか、豊田市美術館へお問い合わせください。

*感染症拡大防止のため会期、関連事業の内容、来館者の受入態勢等を変更する場合があります。当館ウェブサイトから最新情報をご確認ください。

開催趣旨

ホー・ツーニエンは、映像、インスタレーション、サウンド、演劇といった多領域を横断しつつ、時に妖艶に、時にダイナミックに観る者を魅了しながら、出身地のシンガポールを軸にアジアを舞台にした作品を展開します。

本展では、奇怪かつ滑稽な100の妖怪たちが闇を練り歩きます。そこには、第二次世界大戦中にマレー（シンガポールは1963年にマレー連邦から独立）で活動した日本人も、妖怪たちの姿を借りて登場します。ともに「マレーの虎」の異名で呼ばれた山下奉文（ともゆき）大将と60年代のヒーロー番組「怪傑ハリマオ」のモデルになった谷豊（たにゆたか）を中心に、その周囲で暗躍した軍人やスパイ、そして当時の思想家たち。日常の裂け目から現れる妖怪は、魔に魅入られた時代を映し出すでしょう。

恐怖と好奇心で大衆の心を惹きつけてきた妖怪は、伝承と科学、自然と超自然、忘却と郷愁の間で、時代とともに揺れ動いてきました。20世紀以降に見えなくなった妖怪たちは、今やアニメや漫画の世界で跳梁跋扈しています。近代以降に消えた妖怪とそれ以降に世界を席卷した戦争、そして現代の日本文化—この過去と現代が交わる地点に、複雑な日本の歴史や精神史が浮かび上がります。

作家紹介

ホー・ツーニエン (Ho Tzu Nyen, 1976年シンガポール生まれ)

ホーの出身地であるシンガポールは、19世紀には英国領となり、太平洋戦争中には日本の軍政下に置かれていました。ホーは歴史や伝承を丹念にリサーチし、出身地であるシンガポールを軸にして、アジア全域にまたがる複雑な物語を描き出します。その作品からは、単線的な歴史を超えた、多層的なアジアの歴史が見えてきます。映像、インスタレーション、サウンドといった従来のジャンルを自由に横断しつつ繰り広げられるホーの物語は、正史から抜け落ちたものを亡霊のように蘇らせ、虚構と史実の間で揺れ動きながら、現代に繋がる近代以降のアジアの問題に光を当てています。

主な展覧会

- 2011年 第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ、シンガポール館（ヴェネツィア、イタリア）
- 2012年 個展「MAMプロジェクト016: ホー・ツーニエン（何子彦）」森美術館（東京）
- 2018年 個展「The Critical Dictionary of Southeast Asia Volume:3 N for Names」
クンストフェライン・ハンプルク（ハンプルク、ドイツ）
- 2019年 あいちトリエンナーレ2019 名古屋市及び豊田市（愛知）
個展「G for Gong」Edith-Russ-Haus für Medien Kunst（ベルリン、ドイツ）
- 2021年 第13回光州ビエンナーレ、光州（韓国）
個展「ヴォイス・オブ・ヴォイド-虚無の声」山口情報芸術センター（山口市）

受賞歴

- 2014年 Asia Pacific Breweries Signature Foundation Art Prize 2014, シンガポール美術館、大賞受賞（シンガポール）

アニメーションを中心とした映像作品を、5つの展示室でひとつのプロジェクトとして展開します。

展覧会のみどころ

日本をテーマとしたプロジェクトの第三弾

ホーの日本でのプロジェクトは、あいちトリエンナーレ2019の豊田会場における喜楽亭(きらくてい)の《旅館アポリア》に始まり、2021年春の山口情報芸術センターでの《ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声》に続いて、本展が最後になります。旧旅館を会場とした《旅館アポリア》では、戦中にこの旅館に宿泊した特攻隊員、京都学派の思想家たち、南洋に派遣された映画監督の小津安二郎(おづやすじろう)や漫画家の横山隆一(よこやまりゅういち)といった文化人が登場し、当時の空気と呼べるものを蘇らせます。《ヴォイス・オブ・ヴォイド》では、そのうち京都学派の哲学者のみに焦点を当て、戦争を支えたとされる思想を時代の複雑さの中で再考しました。日本で3度目となる本展では、近代から現在まで日本の大衆文化を反映してきた妖怪に焦点を当て、戦争を挟んだ日本の文化史や精神史を浮かび上がらせます。

なぜ妖怪？

本展では、日本の妖怪の表象に加えて、ホーが新たに考案したユニークな妖怪も入り混じり、アニメーションで制作された百の妖怪が闇を練り歩きます。日本に昔から存在する妖怪は、時代ごとの政治的、宗教的、芸術的コンテキストにより形成されてきました。恐怖と好奇心で大衆を惹きつけてきた妖怪は、正史とは異なる人々の感情や無意識の歴史であるといえます。妖怪は現代でも、伝統的な姿を守りつつも新しい形態を生み出し続ける、日本の自由で豊かな想像力を支える受け皿になっています。いわば大衆的な文化史の表象である妖怪に、ホーの国家や歴史に対する洞察が重なります。

マレーの虎

アジアの広域に生息し、植民地政策の拡大とともに15世紀以降徐々に姿を消していった虎を、ホーはアジア全体の表象としてしばしば作品に登場させてきました。日本に虎は生息していませんでしたが、中国文化の影響により平安時代から絵画のなかに登場して、日本文化の中に根付いてきました。本展では、第二次世界大戦中にシンガポールで活躍し、ともに「マレーの虎」と呼ばれた二人の日本人—シンガポール作戦を率いた山下奉文(ともゆき)大将と、盗賊の首領から日本軍のスパイになった谷豊(たにゆたか)—が登場します。谷豊は、1960年代にテレビのヒーロー番組「怪傑ハリマオ(マレー語で虎の意味)」のモデルになった人物でもあり、ある世代には懐かしさとともに思い返されるでしょう。ホーの描く虎は、過去から現代までアジア全域を軽々と飛び越えながら変容し続ける文化的表象として、本展にも登場します。

展覧会のみどころ

音楽を制作

実験音楽家の恩田晃（おんだあき・1967年生まれ）の作曲、プロデュースにより、実験音楽家の灰野敬二（はいのけいじ・1952年生まれ）とPhew（ひゅー・1959年生まれ）が、ホー・ツーニエンの映像に合わせて演奏します。

カタログ

出版：torch press

刊行予定日：2021年12月

価格：未定

*発行日等の詳細が決まり次第、美術館ウェブサイトでお知らせします。

関連事業

会期中、美術館講堂、もしくはオンラインにて、魅力的なゲストとともに作家のトークを予定しています。

内容、日程等の詳細は美術館ウェブサイトにてお知らせします。

同時開催企画

ホー・ツーニエン《旅館アポリア》

とよたまちなか芸術祭の特別展示として、豊田市の旧旅館・喜楽亭を会場に、その場の歴史を読み込んで展開したあいちトリエンナーレ2019の話題作《旅館アポリア》を再現します。

期間：2021.12.4 | 土 | - 2022.1.23 | 日 |

開館時間：10:00-16:30

休館日：月曜日 [2022年1月10日は開館]、年末年始 (2021年12月27日 - 2022年1月4日)

主催：公益財団法人豊田市文化振興財団、豊田市

会場：喜楽亭 (豊田産業文化センター内)

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1丁目25番地

*美術館と喜楽亭の間は徒歩15分

お問合せ

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

ウェブサイト: <https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

- 展覧会に関すること 学芸担当：能勢 (のせ)、千葉 Tel 0565-34-3131
- 掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当：吉兼 (よしかね)、小川 Tel 0565-34-6748

「ホー・ツーニエン 百鬼夜行」 広報用画像について



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

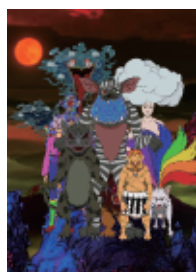
送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼（よしかね）、小川

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel		Fax
e-mail		必要な画像等の番号
掲載紙／メディア名		発売、放送予定日
必要な鑑賞券枚数（最大5組10名分）	枚	鑑賞券の送付先

*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



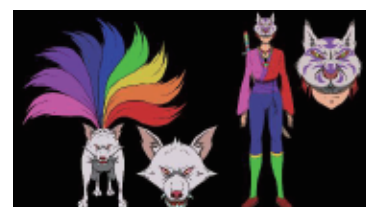
1



2



3



4



5



6



7

1. ホー・ツーニエン《百鬼夜行》2021年 ©Ho Tzu Nyen *背景があるもの
2. ホー・ツーニエン《百鬼夜行》2021年 ©Ho Tzu Nyen *背景がないもの
3. ホー・ツーニエン《山彦(百鬼夜行)》2021年 ©Ho Tzu Nyen
4. ホー・ツーニエン《狐(百鬼夜行)》2021年 ©Ho Tzu Nyen
5. ホー・ツーニエン《ろくろ首(百鬼夜行)》2021年 ©Ho Tzu Nyen
6. ホー・ツーニエン《旅館アポリア》2019年 Photographed by Tololo Studio ©Ho Tzu Nyen This work was supported by Aichi Triennale 2019
7. ホー・ツーニエン近影 Photographed by Matthew Theo 2017

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮いただき、クレジットを表記してください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 ☐画像送付 ☐校正 ☐修正 ☐配信・配本